

学習難易度及び化石化に関する研究

——『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』を手がかりに——

于 康

(関西学院大学国際学部教授)

言語習得には、容易に習得されるものもあれば、なかなか習得できないものもある。言語学習¹⁾には難易度や化石化といった現象が存在する。言語習得の難易度や化石化の研究は、習熟度別の誤用データが必要不可欠であるが、これまでは、データ収集が非常に困難であったためか、なかなか研究が進んでいないのが現状であった。そこで、于康研究グループは、2014年から中国国内の大学45校から誤用のデータを集め、添削やタグ付与などの作業を経て、大型の『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コンコーダンス』Ver.7を構築した。これにより、習得難易度や化石化の研究が可能になった。

習得難易度や化石化の研究の一例として、格助詞の誤用を挙げる。誤用のパターンは、①X→Y（混用）、②○→Y（不使用）、③X→○（過剰使用）に分けられる。

図1は格助詞の誤用パターンである（比較のために、助詞「は」も含む）。格助詞の学習において、最も学習しにくいものが「が→Y」「に→Y」「○→Y」「を→Y」と「X→に」「X→に」「X→を」「X→で」「X→○」といえよう。

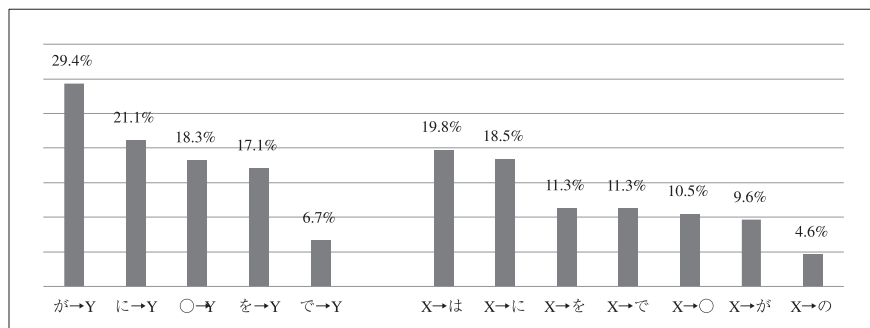


図1

図2は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」における習熟度別の誤用の出現頻度と学習難易度の推移であり、図3は、「X（誤用）→格助詞（正用）」における習熟度別の誤用の出現頻度と学習難易度の推移である。

1) 「言語習得」とは、時間や空間の制限を受けずに自然に言語を身につけることであるのに対し、「言語学習」とは、時間や空間の制限を受けた上で言語を身につけることである。ここでは、第二言語としての言語は「習得」という用語を、外国語としての言語は「学習」という用語を使用して表現する。

